

## 令和5年度 学カスタンダード指導計画・報告書

教科：(理科) 科目：(生物基礎) 対象：(第3学年 A組～ F組)

教科担当者：

教科・科目の 指導目標	日常生活や社会と関連のある題材を多く取り入れることにより、生物や生物現象への関心を高めさせ、自然界における人間や自己の在り方を考察する機会をもたせる。また、見通しをもって観察、実験などを行なわせ、科学的に探究する能力や態度を育てるとともに、自他の生命や自然環境を大切にすることができる生徒を育成する。
----------------	--

	前年度の学力調査分析結果	分析結果を踏まえて検討した指導内容	指導体制の確立
年度当初	本校では、3年次に「生物基礎」が設置されており、1年次には理科の授業はなく、2年次に「科学と人間生活」が設置されている。そのため、2年次に「科学と人間生活」で学習した範囲を除いては、中学校卒業以来数年ぶりに生物分野の学習を行うことになる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分自身の体に関することや日常生活に関することなど、生徒に身近な話題を多く教材として取り上げ、生徒の興味・関心を引き出す。</li> <li>・中学校での既習事項の復習も適宜取り入れ、基礎的な内容から発展的な内容へとステップを踏んで定着を図る。</li> <li>・グループワークや発表など、プラスのフィードバックを受け取る機会を多く設けることで、生徒に達成感を与えるとともに、生徒の自己肯定感や学習への意欲を高める。</li> <li>・生徒が思考・判断・表現する時間を十分に確保し、受け身ではなく主体的に学習に取り組むことのできる活動を授業において意識的に行う。</li> <li>・生徒が自身の学びや学習状況を把握できるよう、冬小単元ごとに振り返り活動を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒実験や演示実験の実施 生物を身近に感じ、知識を体系的に理解するためにも、演示実験や生徒実験の機会を多く設ける。学期に3回程度を目安に、生徒実験や演示実験を実施する。</li> <li>・生徒実態把握と授業の改善および個別の対応 回収した振り返りプリントから授業の理解度や生徒の疑問等を把握し、その内容を基に、授業の改善や個々へのフォローなどを行う。</li> <li>・視聴覚教材の活用 具体的なイメージをもちやすいよう、ICT機器や模型、DVD等を活用する。</li> </ul>

	生徒の変容	生徒の学力の定着状況	次年度に向けた指導体制の改善
年度末			